

西岡公園再整備計画 第2回説明会のご報告

第2回説明会の内容を掲載したニュースレターVol.4をご報告いたします。

今後の事業方針の検討に時間を要したため、説明会開催からニュースレター配布までに期間が空いてしまいました。報告が遅れてしまったことをお詫び申し上げます。

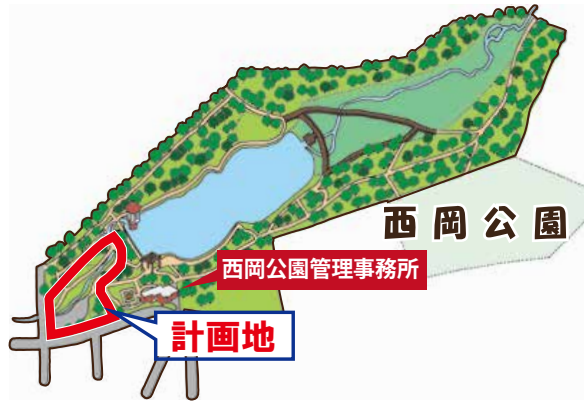
これまでの経緯

札幌市では、西岡公園の豊かな自然を残しながら、誰もが安心安全に利用できるように再整備を進めています。令和4年度は、ワークショップを行い、橋梁設置の必要性が確認され、設置位置が決まりました。また、それに伴う「駐車場周辺」と「芝生広場」の整備について話し合いました。

令和5年度は、令和4年度に策定した計画をもとに、検討・意見交換を行い再整備計画の詳細について設計を進めました。

第2回説明会開催概要

- 開催日：2月12日(月) 17:00～19:30
- 場所：西岡公園 公園管理事務所
- 参加者：16名（うち、関係者10名）



開催の目的とまとめ

第2回説明会では、橋梁と駐車場、芝生広場に分けて具体的な整備内容を説明した後、意見交換を行いました。

【橋梁について】

橋梁の設置には、洗堀を防止するため、護岸コンクリートブロックを両岸に50m程度設置する必要があります。トンボやホタル等の自然環境を保全するため、隠し護岸ブロックや影響の少ない掘削範囲の設定などの対策を提案し、意見交換を行いました。工事による樹木伐採などの自然環境に対する影響が懸念されたため、整備内容を決定することができませんでした。

今後、自然環境への影響について改めて把握し、施工方法及び自然環境の保全方法について検討を行い、令和6年度以降も話し合いの場を設けていくこととなりました。

【駐車場・芝生広場について】

第1回説明会の内容を受けて修正した案をもとに、駐車場のレイアウトや照明灯、サインの配置についてご確認いただき、大筋でこの内容をもとに設計を進めていくことになりました。

芝生広場は、現状、斜面裾に生育しているミズバショウが今後も観察できるように大掛かりな工事は行わず、園路を山側に変更して、芝生広場を広く確保できるようにしていきます。

意見交換の内容とまとめ（橋梁について）

【説明内容】

<橋梁・護岸工事に伴う影響範囲>

- ▶新しく設置する橋梁の護岸は両岸にそれぞれ50m程度となります。
- ▶掘削幅は左右護岸ともに幅3m程度、橋梁部で幅10m程度となります。
- ▶護岸設置に伴い支障となる樹木は伐採となります。伐採木の多くは移植が困難な大きさですが、一部の小さな樹木については移植を検討します。

<自然環境の復元・保全方法>

- ▶護岸はホタルがふ化する場所を確保したホタルブロックの設置を検討します。
- ▶右岸側に水路を広げることで、柔らかく湿った状態を確保し、水際植生の育成を助長します。また、右岸側は護岸を土砂に埋めた、隠し護岸とします。
- ▶左岸側は護岸が露出しますが、覆土等により護岸が極力露出しないようにします。
- ▶護岸の施工により現在の河床が掘削されますが、掘削された土砂は現地の種子などが混入した状態のままで、出来るだけ再利用します。

【意見交換内容】

- ：札幌市、指定管理者、委託会社からの説明
- ：参加者からのご意見

<トンボやホタルなどの生息環境>

- トンボは下流の既設木橋より下流部から、新橋までの範囲で生息しているので樹木が伐採されると木陰が無くなり、トンボが生息しなくなる。
- 高木の移植は難しい。苗木が成長するには数年は掛かると思われる。
- 植樹しても成長するまでに数年もかかるのであれば、トンボが戻って来るか解らないので、今の樹木は極力残してもらいたい。
- 樹木もただ生えていればよいわけではなく、枝葉が川に覆いかぶさるようになることで、水温が上昇しないような環境が必要である。
- 市民ボランティアとの協同など、自然環境の復元方法について検討したい。
- 工事はいつ、どれくらいの期間となるでしょうか。
- 工事は河川の流量が少ない渇水期に行うこととなり、11月～3月くらいまでを想定していますが、樹木の移植も考慮すると2ヵ年となる可能性が高いです。
- トンボが成虫になるまで3～4年かかるため、ヤゴは1年中生息しているので、冬季の施工でも影響はある。

水辺の木陰の消失に伴う対策を検討

<橋梁の必要性について>

- 西岡公園は2008年に策定された基本計画において、住民の協力のもとで自然を保護し過度な構造物などは設置しないこととされている。現状の木橋を補強して使い続けてはどうでしょうか。
- 木橋は公園の敷地外にあり札幌市の所有物ではありません。また、老朽化が著しく危険であり、補強も難しい状態です。
- 橋は、公園利用者が安全に芝生広場へ渡るため、公園の維持管理作業に必要な車両が通行する目的で設置します。持続的な公園の維持管理のために必要な施設となります。
- 護岸は、橋梁の周囲の洗堀を防ぐために必要となります。また、木橋撤去部やすでに洗堀を受けている部分も将来的な安全を考え護岸が必要となります。

公園利用および維持管理上、橋梁が必要

<橋の規模や形状について>

- 橋の規模を歩道用のもっと小規模な橋とすればよいのではないかと。
- 護岸の必要な範囲は河川条件により決まるため、橋の規模を小さくしても、樹木の伐採への改善策とはなりません。
- 吊り橋のように橋を長くして、川に影響のないようにすればよいのではないかと？
- 構造的に吊り橋は橋長が長くなるため適しません。橋長を長くすると駐車場の確保に影響するため、物理的に難しいです。

橋の規模や形状を変更しても 護岸の必要範囲は変わらない

<今後の進めかたについて>

- 橋を設置した場合の自然環境に与える影響や保全方法について、不明瞭な部分があるため、橋の設置の可否についての判断ができない。施工による環境への影響や施工後の環境復元なども含めた具体的な計画を示してもらいたい。
- 今回いただきましたご意見を踏まえまして、特に環境の保全について検討し、令和6年度以降も、引き続き話し合いの場を設けていきたいと思います。

継続して意見交換会を開催

長期的な視点で工事および保全・ 復元を検討

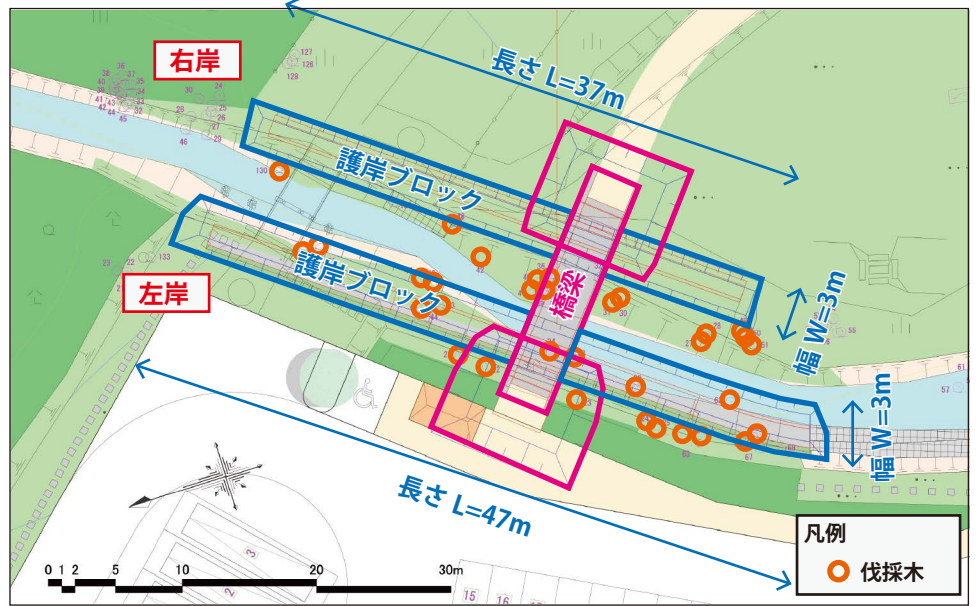


図. 第2回説明会で提示した橋梁の平面図

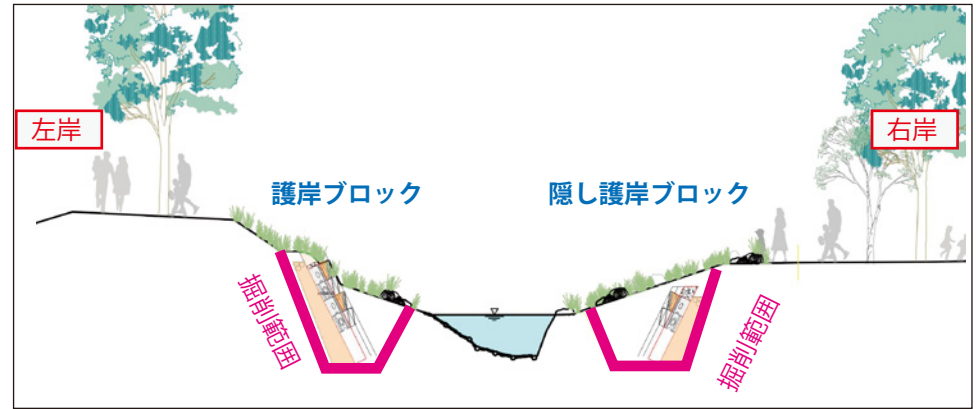
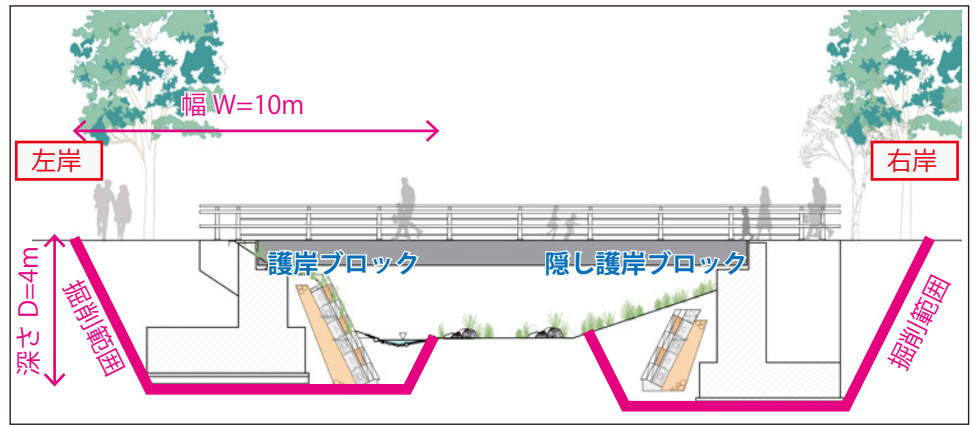


図. 第2回説明会で提示した橋梁の断面図

意見交換の内容とまとめ（駐車場・芝生広場について）

橋梁の整備方針は固まっていますが、駐車場および芝生広場についての意見交換を行い、駐車場のレイアウトや動線計画、サインの配置、照明の配置などが整理できましたので、下記に記載します。（凡例 ●：札幌市、指定管理者、委託会社からの説明 ○：参加者からのご意見）



駐車場側のみを照射し、月寒川側へは照明が漏れにくいような周辺環境に配慮した照明灯を配置します。また、照明灯は、明るさを調整できる仕様のものを設置します。



駐車場には緑地帯を設けて、バスと乗用車の動線を区切ります。また、駐車場からトイレへはスロープと階段を利用できるように整備します。



【トイレの建替え】

- 老朽化のため、新しいトイレに建替えます。
- 下水道本管と駐車場に高低差があることから、トイレの排水を流すため、同じ位置に建替えとなります
- トイレの建替え工事は、令和7年度以降を予定しています。
※橋梁の新設や駐車場整備の前に工事を行う場合があります。

現状の位置に建替え



橋梁ができることで、芝生広場側は1.5～2.0m程度、土を盛って高くなりますが、園路から芝生広場へどこからでもアクセスしやすいように、緩やかな傾斜の法面にします。



園路は現状と同様に嵩上げし、山裾側に雪解け水が溜まるようにして、ミズバショウなど水生植物が生育できるようにします。また、嵩上げすることで、ぬかるみなく通行できるようにします。

